



令和元年7月1日現在	
総人口	12,732人
男	6,204人
女	6,528人
世帯数	5,331世帯
電話	47-0264
島内公民館 FAX	40-1264

『島内歴史かるた』

知っていますか？

この度、公民館文化委員会では、「島内歴史かるた」を多くの皆さんに知っていただき、利用してもらおうと手作りです。復刻しました。作ったかるたは9セットで、色が赤、緑、黒とあります。札は1ミリの単位で計って作り、箱も赤黒公民館長の手による逸品です。



このかるたの原型は、2003年に、島内地区の歴史文化を長い間調査研究されていた、和田弘さん(町町会・故人)が作った原稿を読み札と

し、元島内公民館長の宮下正次さん(東方町会)がそれにちなんだ切り絵で、絵札を仕上げたものです。



原作者の宮下さんは「和田さんは、昔の島内地区の生活・習慣・文化などを詳しく調べていて、皆さんに伝えたいと強く願っていました。私は、文字と絵をすべて白黒の切り絵にして、シンプルで強い印象を与えるように工夫して作りました。今回、復刻して利用してくださると聞いて、故人もさぞかし喜んでいらっしやるでしょうし、私も嬉し



これが平瀬城跡だ！
—平瀬城跡ピクニックウォーク—

6月22日(土)、島内地区健康ウォーキング大会「平瀬城跡ピクニックウォーク」が開催されました。参加者数は、男性34名、女性47名の計81名で、最年少は3人の小学2年

く思います」と話していました。

先ごろ、北中町内公民館で行われた3世代交流事業「ふれあいの日」に、さっそく利用されたが利用されました。これからも多くの皆さんが活用することが期待されます。(利用希望者は島内公民館へ)

「料理」って大変だなあ!!

5月23日「牛乳をつかった料理」をテーマに、男性をターゲットにした料理教室が開催されました。

生、最年長は83歳の百瀬明彦さん(南中)と竹内由房さん(平瀬川西)でした。

往路は、平瀬川東地区から下田地区に抜け、山道を城跡に向かうルートです。途中、道祖神や歌碑、平瀬学校跡地などでミニ解説を聞きながら歩き、山道は登山さながらに列になつて登りました。たどり着いた城跡は、広く視界が開けたのどかな丘陵でした。

そこでは、高山和卓島内史談会長から城跡の説明を聞き、平瀬城跡一口城主会の飯田洋三代表城主からは城跡の保存整備への協力の呼びかけもありました。いただいたおにぎりを食べた後、しばらく眺めを楽しんだりした後、坂道を下って今度は国道沿いを歩いて帰着しました。

宮田芳彦福祉ひろば推進協議会長によると「史跡などを巡りながら歩く今回のねらいは概ね成功したので、さらに改善して次を企画したい」とのことでした。

参加者を気遣いながら歩くスタッフの姿や、自宅トイレを提供してくれた下田町会長さんのご厚意など、島内地区の方のおもいやりを感じるウォーキングでした。多世代交流の意味も感じられ、今後の進展が期待されるそうです。

島内地区食生活改善推進協議会を講師に「チキンのヨーグルト焼き、あられ野菜サラダ、レタススープ、小倉ミルクかん」のフルコースを作りました。日頃包丁を握ることが少ない男性陣が多かったようですが、講師のおかげもあり、楽しんで調理している様子でした。

参加者からは「日頃料理をまったくしないので、改めて妻のありがたみを感じた」「月1回程度集まって、カレーなど一般的なメニューを作る機会があるとよい」などの意見が寄せられました。

今後、当地区でも高齢化や男性の独居世帯が増加するなかで、ひとつのコミュニティの形として「男性料理の輪」が広がっていくといいですね。





阪神・淡路の震災以来、大規模災害の備えは行政主導で物資の備蓄、情報の提供など進められています。各町会にも防災無線・防災倉庫が配備されました。また自主防災組織も発足し、防災訓練が火災の消火に加え、避難訓練も盛んに行われるようになりました。訓練を通じて地域のつながりを確認することも訓練の目的になっています。

公民館報でも度々防災の話題を取り上げ、一貫して伝えていることは「まず、備えましょう」です。防災マップの確認からはじめ、最後は地域の助け合いの力をつけることが被害を減らすこととなります。これからも機会ある毎に、地域力が防災になることを伝えていきます。

平成の災害

地域力を防災に

平成は「災害の時代」とも言われ、全国各地で地震や豪雨などによる被害が相次ぎました。平成23年6月30日には、松本でも震度5強を観測した「長野県中部地震」がありました。今回は災害をテーマに平成を振り返り、令和での備えとしたいと思います。

H7.1/17 阪神・淡路大震災

神戸市長田区の避難所で炊き出しをしました。現場へ行かなければ理解できない惨状。あたたかい食べ物どこへ行っても感謝されました。 男性 60代

H10.1/14~15 百年に一度の積雪!? 69cm

一人住まいだった祖母の家。長野市から駆け付けた時、道路から玄関まで歩けるよう雪かきがしてありました。通学路の除雪をした近所のお母さんたちがしてくれました。ありがたかったです。 女性 50代

H18.7/15~19 7月豪雨 265cm

奈良井川の増水を見に行こうとして母に強く止められました。梓川のマレットゴルフ場も流されました。 女性 50代

H23.3/11 東日本大震災

二人の子供のうち一人は仙台の友人宅、もう一人は

海外に滞在
中でした。

福島原発の

事故の後は

様々な情報

が流れ「も

う子どもた

ちに会えな

いのでは」

と不安な日

々を過ごし

ました。

女性 60代

その時あなたは…

(平成元年～30年)

H23.6/30 長野県中部地震 震度5強

家が「ミシッ」と鳴りました。机につかまり動かせませんでした。独居老人なので、近所の人へすぐに様子を見に来てくれたときは安心しました。 女性 80代

H26.2/14~15 豪雪 積雪75cm

この年は2月3日にも60cmの積雪がありました。道路の除雪が進まず、交通がマヒしました。旅行の帰路でバスが立ち往生して、隣の公民館で休ませてもらいました。スーパリーの品物



備えあれば…平成14年11月号



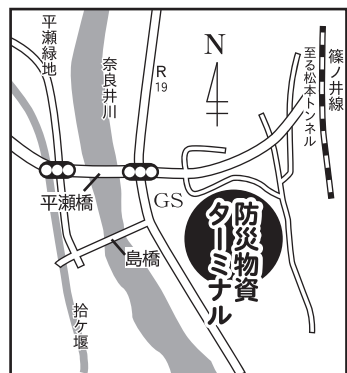
災害時地域で取り組む助け合い 平成27年9月号

が少なくなり不便でした。 男性 60代

「体験からの言葉には一言一言に重みがあります。一口に災害と言っても、皆違いますが。その都度、その場に合った対応ができるためにも地域力で「そなえよ常に」です。

松本市防災物資 ターミナルの建設進む

平瀬川東地籍(平瀬橋南東向い)に「(仮称)松本市災害時支援物資集積拠点」の整備が始まっています。災害時に大量の物資受入れに対応できる相当な屋内スペースと運搬トラックの動線が



確保された実効性の高い施設です。

平常時は、備蓄倉庫、消防団活動の拠点として活用し、大規模災害時は、松本市が被災時は集積拠点、他地域が被災時は中継拠点となります。土砂災害等の危険性がある場合は周辺住民の一時避難所になります。運用開始は、2年2月からの予定です。